

東北、関東、中国地方の農山漁村に於ける産兒調節実態調査結果報告

—— 宮城、岩手、青森、埼玉、岡山県下、一町三四ヶ村について ——

篠崎信男

一、序

昭和二二年以来、厚生省人口問題研究所に於いては産兒調節実態調査を実施してきたが、今回は第三次報告として昭和二四年六月より十一月に調査した結果を、まとめて発表する。本調査は東北三県については十ヶ村宛、岡山県は一町二ヶ村、埼玉県は二ヶ村、計一町三四ヶ村に居住する妻の年令満十五歳より四九歳迄の夫婦全体を対象として配票調査によつて得たものである。以下述べるものは総数一七、六二四票の結果で更に調査村を述べれば次の如くである。

青森県

- 東津軽郡平館村 漁村
- 〃 荒川村 農村
- 中津軽郡大浦村 農村
- 〃 和徳村 農村
- 三戸郡階上村 漁村
- 〃 市川村 農村
- 〃 川内村 農山村
- 南津軽郡中郷村 農村
- 西津軽郡岩崎村 漁村

岩手県

- 〃 大戸瀬村 漁村
- 紫波郡志和村 農村
- 〃 水分村 農村
- 岩手郡御所村 山村
- 〃 明神村 山村
- 〃 江刈村 山村
- 胆沢郡小山村 山村
- 〃 白山村 農村
- 江刺郡愛宕村 農村
- 二戸郡田山村 山村
- 〃 荒沢村 山村
- 本吉郡大島村 山村
- 登米郡北方村 漁村
- 本吉郡唐桑村 農村
- 柴田郡沼辺村 漁村
- 伊具郡楼村 山村
- 玉造郡東大崎村 農村
- 栗原郡畑岡村 農村
- 〃 姫松村 山村

宮城県

- 〃 大戸瀬村 漁村
- 紫波郡志和村 農村
- 〃 水分村 農村
- 岩手郡御所村 山村
- 〃 明神村 山村
- 〃 江刈村 山村
- 胆沢郡小山村 山村
- 〃 白山村 農村
- 江刺郡愛宕村 農村
- 二戸郡田山村 山村
- 〃 荒沢村 山村
- 本吉郡大島村 山村
- 登米郡北方村 漁村
- 本吉郡唐桑村 農村
- 柴田郡沼辺村 漁村
- 伊具郡楼村 山村
- 玉造郡東大崎村 農村
- 栗原郡畑岡村 農村
- 〃 姫松村 山村

第2表 農山漁村別回収率及び有効率

農山漁村	回収率	有効率
漁村	66.2	68.5
山村	74.0	73.6
農村	82.3	75.1

即ち最高は宮城県沼辺村山村で百%を示し最低は青森県の階上村漁村で三・六%となつてゐるが、この階上村の低率は遠海漁業等で家を離れていたものが多かつたのに起因してゐる、従つて農山漁村別に集計してみると第二表の如く漁村は回収率が悪く山村農村の順になつてゐる。有効状況も略々その順序であるが差が小さい。平均すれば七六・五%の回収状況で有効割合は七二・二%であつた。これは第一次第二次調査の回収率四六・六%と比較して格段の相違がある。これは斯る産兒調節の調査と言うものに

回収状況と有効票の割合は全村悉皆調査であつたにも拘らず比較的好成績を収めてゐる。この概略を村別に示せば次の如くである。

二、回収並びに有効率

従つて地方都市一、農村二七、農山村二、山村八、漁村七である。

岡山県	後月郡井原町	地方都市
御津郡野谷村	栗樹村	
都窪郡清音村	農村	
	農山村	
	久那村	
	秩父郡国神村	農村
	宮戸村	漁村
	桃生郡須江村	農村

第4表 農山漁村別実行率

農山漁村別	有効票中率 実行	回収票中率 実行
漁村	10.5	7.2
山村	11.2	8.2
農村	13.1	9.8

地域別に実行状況を見ると青森県では七・四%より九・一%の平均となり、岩手県は一・〇%より一五・八%、宮城県が六・八%より九・三%、埼玉県は一・二・八%より二二・七%、岡山県は一番高く一五・八%より二五・八%となつて示されてゐる。(第三表参照)平均すれば昭和二四年度の本調査では九・四%より一三・一%の実行状況を示し、この率は昭和二四年五月朝日新聞の行つた全国実行率の標本調査の九・〇%に下の値は近く又新聞世論調査連盟の昭和二四年四月の全国調査結果一三・二%に上の値は近く示されてゐる。従つて昭和二四年度の全国実行率を本調査は示すのと言つても過言ではない。

村別に見れば三・一%の宮城県東大崎農村に最低率が示され、三一・七%の岩手県愛宕農村に最高率が示されてゐる。農山漁村別に見ると第四表の如く、回収状況、有効率の順序と同じくその実行率が漁村より山村、山村より農村へと高く示される。又東京都及びその近郊調査に於いて大都市の文化圏の距離の短縮に比例して産兒調節の実行率が高まつてゐるのを見たが今、一町三四ヶ村の地理的條

対する一般人の理解の深まつたことを示すものである。然し有効率は第一―第二次調査に於いても七一・七%を示し大差はない。これは昭和二二年当時の東京都会人の状態を示しているが時間的には、地方人が三、四年おくられてゐることを示すものであろう。

三、実行状況及びその理由

第 1 表 村別回収状況及び有効票の割合

県名	村名	農山漁村の別	配布数	回収票	回収率 (%)	有効票	回収票中有効票率 %
青森県	平館村	漁村	650	628	96.6	531	84.6
	荒川村	農村	500	462	92.4	426	92.2
	大浦村	農村	620	602	97.1	553	91.9
	和徳村	農村	780	585	75.0	534	91.3
	階上村	漁村	450	151	33.6	128	84.8
	市川村	農村	437	411	94.0	234	56.9
	川内村	農山村	700	500	71.4	453	90.6
	中郷村	農村	701	432	61.7	231	53.5
	岩崎村	漁村	805	346	43.0	208	60.1
	大戸瀬村	漁村	1000	592	59.2	529	89.4
	計		6643	4709	70.9	3827	81.3
岩手県	志和村	農村	900	515	57.3	275	53.4
	水分村	農村	500	440	88.0	403	90.1
	御所村	山村	750	661	88.1	537	81.2
	御明神村	山村	650	379	58.3	197	52.0
	江刈村	山村	650	567	87.3	474	83.6
	小山村	山村	1000	814	81.4	457	56.1
	白山村	農村	400	193	48.3	186	96.4
	愛宕村	農村	750	584	77.9	322	55.1
	田山村	山村	780	296	37.9	230	77.8
	鶯沢村	山村	850	615	72.4	459	74.6
	計		7230	5064	70.0	3540	69.9
宮城県	大島村	漁村	600	384	64.0	220	57.3
	北方村	農村	753	712	94.6	686	96.3
	唐桑村	漁村	1600	1309	81.8	716	54.7
	沼辺村	山村	595	595	100.0	587	98.7
	桜村	農村	440	386	87.7	264	68.4
	東大崎村	農村	520	509	97.9	482	94.6
	畑岡村	農村	388	326	84.0	150	46.0
	姫松村	山村	652	441	67.6	210	47.6
	須江村	農村	310	304	98.1	286	94.1
	宮戸村	漁村	312	174	55.8	124	71.3
	計		6170	5140	83.3	3725	72.5
埼玉県	国神村	農村	450	384	85.3	214	55.7
	久那村	農山村	154	153	99.3	90	58.8
	計		604	537	88.9	304	56.6
岡山県	井原町	地方都市	1600	1419	88.8	870	61.3
	野谷村	果樹村	335	326	97.3	216	66.3
	清音村	農村	450	429	95.3	248	57.8
	計		2385	2174	91.2	1334	61.4
総計		23,032	17,624	76.5	12,730	72.2	

第3表 村別実行状況

県名	村名	農山漁村の別	実行者数	有効票中の実行割合	回収票中の実行割合 (不完全票を不 実行者として)
青森県	平館村	漁村	32	6.0	5.1
	平荒川村	農村	18	4.2	3.9
	大浦村	農村	38	6.9	6.3
	大和徳村	農村	46	8.6	7.9
	階上村	漁村	7	5.4	4.4
	市川村	農村	45	19.0	11.0
	川内村	農山	32	7.1	6.4
	中郷村	農村	63	27.3	14.6
	岩崎村	漁村	34	16.3	9.9
	大戸瀬村	漁村	32	6.1	5.4
	計		347	9.1	7.4
岩手県	志和村	農村	84	30.5	16.7
	水分村	農村	55	13.6	12.5
	御所村	山村	48	8.9	7.3
	御明神村	山村	61	31.0	16.1
	刈刈村	山村	41	8.6	7.2
	小山村	山村	80	17.5	9.8
	小白山村	農村	18	9.7	9.3
	愛宕村	農村	102	31.7	17.5
	田山村	山村	30	13.0	10.1
	荒沢村	山村	39	8.5	6.4
	計		553	15.8	11.0
宮城県	大島村	漁村	17	7.7	4.4
	北の方村	農村	35	5.1	4.9
	唐桑村	漁村	122	17.0	9.3
	沼辺村	山村	33	5.6	5.5
	桜村	農村	31	12.1	8.0
	東大崎村	農村	16	3.3	3.1
	畑岡村	農村	26	17.3	8.0
	姫松村	山村	27	12.9	6.1
	須江村	農村	26	9.1	8.6
	宮戸村	漁村	14	11.3	8.0
	計		347	9.3	6.8
埼玉県	國神村	農村	48	22.4	12.5
	久那村	農山村	21	23.3	13.7
	計		69	22.7	12.8
岡山県	井原町	地方都市	247	28.4	17.4
	野谷村	果樹村	54	25.0	16.6
	清音村	農村	43	17.3	10.0
	計		344	25.8	15.8
総計			1,665	13.1	9.4

(註) 本表で二種類の実行率を示してあるが一つは調査回収票中産児制限を実行しているか否かについて明確に記入されてある完全記入票中の実行割合であり他は回収票全体に対する実行割合で従つて産児調節を実行しているか否か明確を欠く不完全票をも産児制限を行つていないものとした時の実行率である。

件を前回と同様に鉄道沿線の交通便利な大都市及び小都市よりの距離を中心として見ると、五軒圏内にあるものは十ヶ村（井原町を含む）五軒—十軒圏内のもの十五ヶ村、十軒—二十軒圏内のもの七ヶ村、二十軒—三十軒圏内のもの三ヶ村である。斯る文化距離別にその実行率を見ると第五表の如く文化中心に近い村程実行率が高く、これより遠ざかるにつれてその実行率が次第に減少していることが伺われるのである。この事は東京都心を中心として普及展開を遂げていた実行状況と略同様な状態であり、従つて産児制限の普及は地方に於いても同様な傾向を辿つていくことが頷づけよう。

第5表 文化交通距離別に見た実行率

中心文化地点より	有効実行率	回収票中実行率
5軒以内	18.6%	12.3%
5軒—10軒	12.5	8.7
10軒—20軒	9.3	7.7
20軒—30軒	7.7	6.2

次に実行者の理由をみると、その理由の割合が稍々異つてゐる。例えば東京都では経済上の理由が何れも多く、次に母体の健康上の理由、第三が子供に対する養育上の問題となるが、東北三県は母体上の理由を第一とするものが相当にある。今経済上の理由をAとし、母体の健康上の理由をBとし子供健康その他養育上の負担の理由をCとして、頻度の多い順に並べて、その理をみると、東京都と同様なABCの型になるものは、宮城県で二ヶ村、岩手県四ヶ村、青森県二ヶ村、岡山県一町一ヶ村に過ぎない。東北では寧ろBACの型がふえてゐる。第六表に斯る型別に見た村を掲げてみよう。

之に依れば東京都型の実行者の構成状況を示すものは全体で一町九ヶ村で、之に近い型、即ちA（経済上の理由）を最も多く述べて

いるがBCの順にはなつていない村は九ヶ村である。他は逆にB（母体の健康上の理由）を最も多く理由としてゐる。又表にみる通り、Aの理由を欠く村はないがB及びCの單獨理由が述べられない村もある。

即ち受胎調節を行う感覚が社会生活の中より割り出されて来るものと、健康生活の中より割り出されて来るものが圧倒的に多いことが分るが、母体の健康上之を行うことは、つまり東北三県は出産が如何に多いかをも物語り、出産と結びついた直接的のものにその理由が発していることは、都会の社会生活から割り出された経済的理由の進歩段階と比べて、第一段階的な原始的な理由の一つである。つまり生活水準の向上と言うものを中心として実行理由を段階付けてみた場合、受胎調節の近代文明への活用適応が單に母体の健康上からのみ理由となつてゐることは、感覚的に初歩的段階であると言ふことである。即ちAとBとの序列はAがBに優位することが一般に東京都の実行者の構成である点より見て、地方に於ける実行者の層が都市程は進化してゐないことを想像せしめるのである。しかし実最大の行理由がAである村と、Bであると村との文化圏距離をしらべてみると前者は後者よりも幾分大である。つまり文化中心点より遠い村が却つて東京都型に似てゐるということになる。従つて一口に経済生活が理由になつてゐるといつても都会的文化生活の内容とする場合と、完全なる困窮を内容とする場合との二つの理由のあることに注意せねばなるまい。

四、不実行者の理由状況

東京都に於ける調査結果は実行者程一様でなく、特にその近郊村との間に大きな開きが見られたのである。即ち都心の官公職員ではC（子供数上の理由）が一番多く、次がA（無関心及び不必要）、B（主観的に拒否するもの）、D（客観的に実行不可能）の順であり、

第 6 表 実行者の理由別頻度の多寡より見た村の分布

型	県	村	計
A>B>C	青森県	大戸瀬(漁) 中郷(農)	2
	岩手県	愛宕(農) 小山(山) 荒沢(山) 御所(山)	4
	宮城県	須江(農) 沼辺(山)	2
	岡山県	井原町 野谷(果樹)	2
A>B=C	青森県	平館(漁)	1
	宮城県	宮戸(漁)	1
	岡山県	清音(農)	1
A>C>B	青森県	川内(農山)	1
	宮城県	東大崎(農)	1
	埼玉県	国神(農) 久那(農山)	2
A=B>C	岩手県	田山(山)	1
	宮城県	北方(農)	1
B>A>C	青森県	岩崎(漁) 大浦(農) 市川(農)	3
	岩手県	志和(農) 水分(農)	2
	宮城県	唐桑(漁) 大島(漁)	2
B>A=C	青森県	和徳(農)	1
	宮城県	桜(農)	1
C>A>B	青森県	荒川(農)	1
A>B	岩手県	白山(農) 江刈(山)	2
Cナシ	宮城県	姫松(山)	1
B>A Cナシ	宮城県	畑岡(農)	2
A>C Bナシ	岩手県	御明神(山)	1
A=C Bナシ	青森県	階上(漁)	1

註 Aは経済上の理由
 Bは母体の健康上の理由
 Cは子供に対する配慮の理由

都心でも工員は、A B C D、近郊村はA C B Dの順であつた。実行者の場合と同様に斯る順序の型別に村を区分してみると第七表の如くである。

即ち本表より分ることは都会の官公職員の不実行者が示したような型は地方では何処もなく、寧ろ都会の工員が示したような型が一町九ヶ村に見られ、東京都の近郊村にみられるような型が七ヶ村に

みられている。従つて無関心及び不必要と言う理由が宮城県須江村を除いて殆んど最上位を占めていることは地方における本問題の知識に欠けている人が如何に多いかを物語るものである。

此処で前の実行者の構成と一緒にして見た場合、東京都型のものと同様な構成型のは宮城県沼辺山村と岡山県野谷果樹村の二ヶ村に止り、実行者が都会型であるが不実行者がこれに近いものは

第 7 表 不実行者の理由別頻度の多寡よりみた村の分布

型	県	村	計
A>B>C>D	青森県	荒川(農) 大戸瀬(漁) 和徳(農)	3
	宮城県	唐桑(漁) 大島(漁) 北方(農) 桜(農) 姫松(山)	5
	岡山県	清音(農) 井原町	2
A>B>D>C	青森県	中郷(農) 川内(農山)	2
	岩手県	志和(農) 小山(山) 白山(農) 御所(山) 御明神(山) 江刈(山) 田山(山)	7
	宮城県	畑岡(農)	1
A>B=C>D	宮城県	宮戸(漁)	1
A>B>C=D	岩手県	水分(農)	1
A>C>D>B	青森県	平館(漁) 大浦(農)	2
	岩手県	荒沢(山)	1
A>C>B>D	青森県	岩崎(漁) 階上(漁)	2
	宮城県	東大崎(農) 沼辺(山)	2
	埼玉県	国神(農) 久那(農山)	2
	岡山県	野谷(果樹)	1
A>D>B>C	青森県	市川(農)	1
	岩手県	愛宕(農)	1
B>A>C>D	宮城県	釜江(農)	1

註 A=無関心及不必要
 B=主観的に実行しないもの、その意志のないもの
 C=子供数上の理由
 D=客観的に実行不可能のもの

岩手県荒沢山村、宮城県須江農村に見られ、又不実行者が都会型であるが実行者が之に近い村は青森県階上漁村、宮城県東大崎農村、埼玉県国袖農村、久那農山村以上六ヶ村に過ぎない。都会は都会型でも都会の工員型を示すものは青森県大戸瀬漁村、岡山県井原町を挙げることが出来る。その他の県は何れも以上述べた諸型の中間的様相を示すものが多いが、特に青森県の荒川村は極端な型、即

ち実行者は非常に進んだ意識を示しているに反して、不実行者は工員型の低い型を示していることが伺われる。
 以上不実行者の理由とする処は、主観的なものの拒否理由と、無関心性が圧倒的であり、この点は東京都の官公職員を除いた一般の実状と相応するものがあることを思わしめる。

五、受胎調節と収入、教育程度及び年齢

受胎調節実行者が不実行者に比して東京都心では収入が高く、近郊村では逆に低かつたが、実行者の方が収入の高い地方は青森県では七ヶ村、岩手県は三ヶ村、宮城県は八ヶ村、岡山県は一町二ヶ村である。つまり実行者の方が高い程、実行率も東京では高かつたが、青森、宮城両県の過半数の村は実行者が高い収入を示し、岩手県では逆に不実行者の方が収入が多く東京近郊村と同様である。此の実状より考へるとこの相関関係は東京都にみられたような実行率の現象と逆である。この実状より見ると、収入と実行率との関係については発展段階の相異によつて時には正反對の関係を呈していることが分る。即ち東北地方では実行者が収入があるから受胎調節をしないと云う面と、又、収入が低いから、受胎調節をせずにはいられないと云う面とが対蹠的に出て来る、埼玉県では実行率は稍々高いがこれは東京都に於ける様な生活水準を下げたくないと言ふ意欲からではなく、収入が少いために逆に実行すると言ふ結果が示されたものである。

即ち岩手県と埼玉県の実行率が青森、宮城に比して高いのは、実行者が不実行者に比して低収入であり、生活に追いつめられた結果実行せざるを得ないと言ふ実状の反映とも考えられる。教育程度別に実行状況を眺めればやはり、高いもの程、実行する割合が増して行くことは争われない、平均婚姻年齢は東京都に比して早く岩手県に於いて特に若い。概して実行者の方が不実行者より婚姻年齢は低く示されている。このことは東京都の調査結果と同様である。

六、初婚再婚別の実行率と現存子供数の

性比関係

夫妻とも初婚のものと夫妻とも再婚のものとを比較して、その実行率を見ると、後者の実行率の高いものは、青森県平館漁村、和徳農村、市川農村、岩手県志和農村、愛宕農村、小山村、白山農村、御所山村、宮城県唐桑漁村、畑岡農村、倭農村、岡山県清音農村、計一二ヶ村である。

特に岩手県に多いことは前節で述べた如く、高年齢者に実行者が多いことを物語り、しかも相次ぐ出産に苦しめられ、更に収入が低いと言ふ生活に追いつめられて、その結果実行者が多いと言ふことを意味するものであろう。

次に村別に子供の性比を見ると実行者が男子を女子より多く持っているものは、青森県で六ヶ村、岩手県六ヶ村、宮城県七ヶ村、岡山県一町一村、埼玉県二ヶ村で、これは東京都調査で見ると、男子を女子に比して多く持つことが受胎調節実行条件となつてゐることより見て地方に於いても、斯る条件に該当しているものが多いことを示すものである。従つて不実行者については性比一〇〇に達しないものが多いことが子供数を中心条件として見た時に逆に裏打される可きであるが、事實は、不実行者で斯る条件に該当する村は、青森県四ヶ村、岩手県四ヶ村、宮城県三ヶ村、岡山県一ヶ村に過ぎない。これは実行者の方が産児計画と言ふものについて進んだ意識を持つてゐるものが多いのに反して不実行者の方は受胎調節と言ふものを計画産児と結びつけて考へるものが少いことを意味している。つまり地方人は東京都人程割り切れてないと言ふことであらう。

然し第四節で述べた最も都会型を示した岡山県野谷果樹村では実行率も高く、又性比条件も全く都会と軌を一にしてゐる。又宮城県沼辺村は不実行者の性比が一〇五で稍々高いが回収率も一〇〇%、有効率九八・七%と言ふ実状より考へてやはり受胎調節に對して認識が深いことを証明している。更に之に次ぐ岩手県荒沢村、宮城県須江村もこの条件を充たしている。従つて実行理由、不実行理

由の構成状況より見て都会型に近いものは、やはり都会人の条件であつた性比条件も同様な実行前提条件になつてゐることは見逃せない。然し乍ら実行率に於いて格段の差が出て来ることは、不実行理由でも若干ふれた通り、地方に行くにつれて、器具薬品の高価なためや、方法を知らないために実行しなくても出来ない人が都会人に比して多くあることも考慮する必要がある。

又地方と都会との生活水準の相違や、又子供数に対する考えが相違していることもその一因である。平均現存子供数が都会では実行者二・七人、不実行者二・二人であるが地方では実行者で二・二人は一ヶ村のみで他は何れも二・五人以上である。従つて平均三人以上であることも子供数を考える場合、数の基準が異つて来ることは争われない事実である。更にこの事実を裏書するものは、希望子供数が都会人より上廻つてゐることである。即ち都会人では夫妻、実行者不実行者ともに希望してゐる数は三・三人より三・八人までであるが、地方人は三・三人より五・一人までである。平均は四人位であるが、斯る平均四人以上を求めている村が青森県で六ヶ村、岩手県で三ヶ村、宮城県では六ヶ村に達してゐる。

従つて都会では既に実行に入る子供線であつても農山漁村では実行に入る子供線でないと言ふ差が実行率にも反映してゐるものと見られるが、一番大きな原因は無関心な人々が圧倒的に多いためであることは銘記しなければならない。

七、妊娠回数別及職業別にみた実行率

妊娠回数別に実行の割合を見ると青森県では妊娠一回、二回、三回に高く、あとは次第に率が下つて一回、一二回の妊娠に又高くなつてゐる。岩手県ではこのような傾向が見られず若干の起伏をえ

がいて妊娠十回に及んでゐる。宮城県は二回三回に高く又六回目に山があり、埼玉県は二回目に高くその後は若干の波があり、岡山県では四回目に高くこれを中心として上下に起伏を示して減少してゐる。

以上を総計して見ると、妊娠一回、二回と言ふ少数の異例を除けば、妊娠四回を経験した人々が一番実行率が高く、次が妊娠二回を経験した人々である。(第八表参照)

妊娠回数が多いもの程、受胎調節を行う人々の割合もふえるであろうと一般には予想されるのであるが事實はこれと異り、寧ろ逆に減少してゐることは、普及性と言ふものが合理化されてゐないことを暗示すると共に、妊娠が死産その他で現存子供数とならず浪産に終つてゐることのあることも伏在してゐる一つの原因であろう。

次に職業別にみた実行状況を見ると、第九表の如く農業者の実行率は埼玉県が一番高く次が岡山県、岩手県、青森県で最低が宮城県となり、商業者も大体この順序であるが、最低が青森県となつて、宮城県と入れ代つてゐる。工業者は埼玉県にはなく不明であるが、岡山県、岩手県、宮城県、青森県の順で、特に青森県の工業者の実行率は職業別実行率の割合でも一番低く出ている。労働者は農業者の実行状況と県別に略々同様な順序であるが、勤人は岡山県が最高で次が埼玉県、青森県、宮城県で岩手県は青森県の工業者と同様に略々最低の率を示した。その他の職業に入る人々は岡山県が最高で、岩手県が之に次ぎ、埼玉県、青森県、宮城県となつてゐる。漁業者は宮城、青森の二県丈であるが、青森県の方が低い、即ち県別にみれば職業別に最高の割合を占めるものは埼玉県が三つ、岡山県三つで、埼玉、岡山両県がやはり高く、東北三県は何れも低く示されてゐる。更に職業別に各県毎にみると、岡山県は工業者が最も高く、勤人「その他の職業に入る人々」となり農業者が一番低く、埼玉県は、商業者に最も高く、労働者、勤人の順で「その他の職業に入る

第 8 表 妊 娠 回 数 別 実 行 率

青 森 県						岩 手 県					
妊娠 回数	実行者 数	有効 票数	回収 票数	有効票中 の実行率	回収票中 の実行率	妊娠 回数	実行者 数	有効 票数	回収 票数	有効票中 の実行率	回収票中 の実行率
0	26	312	436	8.3%	6.0%	0	52	366	602	14.2%	8.6%
1	77	690	845	11.2	9.1	1	111	626	885	17.7	12.5
2	64	614	737	10.4	8.7	2	103	563	807	18.3	12.8
3	50	464	574	10.8	8.7	3	68	454	645	15.0	10.5
4	40	427	530	9.4	7.5	4	77	422	596	18.2	12.9
5	33	405	490	8.1	6.7	5	55	361	506	15.2	10.9
6	23	314	367	7.3	6.3	6	35	308	420	11.4	8.3
7	17	275	324	6.2	5.2	7	25	196	269	12.8	9.3
8	9	158	198	5.7	4.5	8	20	134	181	14.9	11.0
9	4	131	159	3.1	2.5	9	10	92	122	10.9	8.2
10	0	21	32	0	0	10	2	15	22	13.3	9.1
11	3	11	12	27.3	25.0	11	0	2	2	0	0
12	1	4	4	25.0	25.0	12	0	0	0	0	0
13	0	1	1	0	0	13	0	1	1	0	0
不明	0	0	0	0	0	不明	0	0	6	0	0
計	347	3827	4709	9.1	7.4	計	558	3540	5064	15.8	11.0

宮 城 県						埼 玉 県					
妊娠 回数	実行者 数	有効 票数	回収 票数	有効票中 の実行率	回収票中 の実行率	妊娠 回数	実行者 数	有効 票数	回収 票数	有効票中 の実行率	回収票中 の実行率
0	30	431	701	7.0%	4.3%	0	6	19	78	31.6%	7.7%
1	58	699	946	8.3	6.1	1	15	55	104	27.3	14.4
2	56	511	684	11.0	8.2	2	14	48	67	29.2	20.9
3	50	406	551	12.3	9.1	3	9	41	58	22.0	15.5
4	36	367	494	9.8	7.3	4	11	42	70	26.2	15.7
5	35	358	482	9.8	7.3	5	6	34	53	17.6	11.3
6	34	317	414	10.7	8.2	6	3	18	34	16.7	8.8
7	17	242	318	7.0	5.3	7	4	21	29	19.0	13.8
8	17	179	244	9.5	7.0	8	0	11	19	0	0
9	11	143	197	7.7	5.6	9	1	13	21	7.7	4.8
10	2	41	51	4.9	3.9	10	0	0	2	0	0
11	0	12	18	0	0	11	0	1	1	0	0
12	0	4	4	0	0	12	0	1	1	0	0
13	0	5	6	0	0	13	0	0	0	0	0
14	0	1	1	0	0	14	0	0	0	0	0
15	0	1	1	0	0	15	0	0	0	0	0
不明	1	8	28	12.5	3.5	不明	0	0	0	0	0
計	347	3725	5140	9.3	6.8	計	69	304	537	22.7	12.8

岡 山 県						総 計					
妊娠 回数	実行者 数	有効 票数	回収 票数	有効票中 の実行率	回収票中 の実行率	妊娠 回数	実行者 数	有効 票数	回収 票数	有効票中 の実行率	回収票中 の実行率
0	25	134	303	18.7%	8.3%	0	139	1262	2120	11.0%	6.6%
1	64	265	430	24.2	14.9	1	325	2335	3210	13.9	10.1
2	70	267	402	26.2	17.4	2	307	2003	2697	15.3	11.4
3	49	204	306	24.0	16.0	3	226	1569	2134	14.4	10.6
4	69	185	298	37.3	23.2	4	233	1443	1988	16.1	11.7
5	26	115	198	22.6	13.1	5	155	1273	1729	12.2	9.0
6	20	73	115	27.4	17.4	6	115	1030	1350	11.2	8.5
7	18	61	79	29.5	22.8	7	81	795	1019	10.2	7.9
8	2	17	28	11.8	7.1	8	48	499	670	9.6	7.2
9	1	11	13	9.1	7.7	9	27	390	512	6.9	5.3
10	0	2	2	0	0	10	4	79	109	5.1	3.7
11	0	0	0	0	0	11	3	26	33	11.5	9.1
12	0	0	0	0	0	12	1	9	9	11.1	11.1
13	0	0	0	0	0	13	0	7	8	0	0
14	0	0	0	0	0	14	0	1	1	0	0
15	0	0	0	0	0	15	0	1	1	0	0
不明	0	0	0	0	0	不明	1	8	34	12.5	3.5
計	344	1334	2174	25.8	15.8	計	1665	12730	17624	13.1	9.4

第 9 表 職 業 別 実 行 率

	農業者	漁業者	商業者	工業者	労働者	勤 人	その他	不 明	計
岡山県 実 行 者	107	0	32	19	33	96	34	23	344
不 実 行 者	386	0	98	37	105	217	82	65	990
不 完 全 票	364	0	85	31	116	109	46	89	840
計	857	0	215	87	254	422	162	177	2174
有効票中実行率	21.7	—	24.6	33.9	23.9	30.7	29.3	26.1	25.8
回収票中実行率	12.5	—	14.9	21.8	13.0	22.7	21.0	13.0	15.8
埼玉県 実 行 者	32	0	5	0	12	13	2	5	69
不 実 行 者	111	0	6	11	25	39	14	29	235
不 完 全 票	91	0	13	7	36	23	10	53	233
計	234	0	24	18	73	75	26	87	537
有効票中実行率	22.4	—	45.5	0	32.4	25.0	12.5	14.7	22.7
回収票中実行率	13.7	—	20.8	0	16.4	17.3	7.7	5.7	12.8
宮城県 実 行 者	178	75	12	8	13	44	6	11	347
不 実 行 者	2182	560	84	43	133	236	61	79	3378
不 完 全 票	632	490	19	26	60	33	16	139	1415
計	2992	1125	115	77	206	313	83	229	5140
有効票中実行率	7.5	11.8	12.5	15.7	8.9	15.7	9.0	12.2	9.3
回収票中実行率	5.9	6.7	10.4	10.4	6.3	14.1	7.2	4.8	6.8
岩手県 実 行 者	399	0	15	9	37	70	11	17	558
不 実 行 者	2232	0	71	33	222	279	53	92	2982
不 完 全 票	1164	0	43	13	95	87	21	101	1524
計	3795	0	129	55	354	436	85	210	5064
有効票中実行率	15.2	—	17.4	21.4	14.3	2.0	17.1	15.6	15.8
回収票中実行率	10.5	—	11.6	16.4	10.5	1.6	12.9	8.1	11.0
青森県 実 行 者	183	24	14	1	31	74	9	11	347
不 実 行 者	2051	481	114	49	283	354	70	78	3480
不 完 全 票	465	91	33	17	120	60	22	74	882
計	2699	596	161	67	434	488	101	163	4709
有効票中実行率	8.2	4.8	10.9	2.0	9.9	17.3	11.4	12.4	9.1
回収票中実行率	6.8	4.0	8.7	1.5	7.1	15.2	8.9	6.7	7.4
総 計 実 行 者	899	99	78	37	126	297	62	67	1665
不 実 行 者	6962	1041	373	173	768	1125	280	343	11065
不 完 全 票	2716	581	193	94	427	312	115	456	4894
計	10577	1721	644	304	1321	1734	457	866	17624
有効票中実行率	11.4	8.7	17.3	17.6	14.1	20.9	18.1	16.3	13.1
回収票中実行率	8.5	5.8	12.1	12.2	9.5	17.1	13.6	7.7	9.4

第10表 実行者の実行方法の割合

種 類	青森県		岩手県		宮城県		埼玉県		岡山県		総 計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
定期禁欲法	11	3.3	24	4.3	10	2.9	6	8.7	7	2.0	58	3.4
禁 欲 法	37	10.8	35	6.3	30	8.5	6	8.7	32	9.3	140	8.4
コンドーム	62	17.9	71	12.7	45	13.0	9	13.0	66	19.1	253	15.2
ベツサリー	18	5.2	13	2.3	2	0.6	—	—	9	2.6	42	2.5
避 妊 薬	10	2.0	25	4.5	19	5.5	3	4.3	47	13.7	104	6.2
洗 滌	—	—	2	0.4	1	0.3	—	—	2	0.6	5	0.3
梅 干	—	—	—	—	1	0.3	—	—	1	0.3	2	0.1
手 術	4	1.2	4	0.7	4	1.2	—	—	2	0.6	14	0.8
器 具	1	0.3	—	—	—	—	—	—	2	0.6	3	0.2
臍 外 射 精	—	—	16	2.9	6	1.7	1	1.5	2	0.6	25	1.5
体温器避妊	—	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	1	0.1
話 合	—	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	1	0.1
漢 法 薬	—	—	1	0.1	1	0.3	—	—	—	—	2	0.1
医 師	—	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	1	0.1
中 絶 法	—	—	2	0.4	1	0.3	2	2.9	—	—	5	0.3
別 居	—	—	—	—	5	1.4	—	—	—	—	5	0.3
輸卵管結紮	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.3	1	0.1
帝王切開	—	—	—	—	1	0.3	—	—	—	—	1	0.1
レントゲン	—	—	—	—	1	0.3	—	—	1	0.3	2	0.1
禁欲中絶法	—	—	—	—	—	—	1	1.5	1	0.3	2	0.1
禁欲コンドーム	4	1.2	6	1.1	5	1.4	—	—	—	—	15	0.9
薬品コンドーム	1	0.3	5	0.9	4	1.2	3	4.3	1	0.3	14	0.8
薬品ベツサリー	2	0.7	1	0.1	3	0.9	—	—	—	—	6	0.4
薬品器具	3	1.0	4	0.7	2	0.6	—	—	1	0.3	10	0.6
定期禁欲器具	—	—	2	0.4	—	—	—	—	3	0.9	5	0.3
臍外射精コンドーム	—	—	1	0.1	1	0.3	—	—	—	—	2	0.1
定期禁欲コンドーム	—	—	1	0.1	2	0.6	—	—	2	0.6	5	0.3
薬品医師	—	—	1	0.1	—	—	—	—	—	—	1	0.1
コンドームベツサリー	—	—	2	0.4	2	0.6	—	—	—	—	4	0.3
定期禁欲ベツサリー	—	—	1	0.1	—	—	—	—	1	0.3	2	0.1
禁欲臍外射精	—	—	—	—	1	0.3	—	—	1	0.3	2	0.1
定期禁欲薬品	—	—	—	—	—	—	1	1.5	1	0.3	2	0.1
三種類併用	—	—	1	0.1	—	—	1	1.5	1	0.3	3	0.2
そ の 他	—	—	3	0.5	—	—	—	—	26	7.5	29	1.6
不 明	194	56.1	334	60.5	200	57.5	36	52.1	134	38.9	898	54.1
総 計	347	100.0	558	100.0	347	100.0	69	100.0	344	100.0	1665	100.0

第11表

農山漁村地方都市別実行方法

	農村		山村		漁村		地方小都市		総計	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
定期禁欲法	34	4.5	17	4.1	7	2.7	0	—	58	—
禁欲法	70	9.4	38	9.2	7	2.7	25	10.1	140	—
コンドーム	130	17.4	49	11.9	33	12.8	41	16.6	253	—
ベツサリー	17	2.3	9	2.2	8	3.1	8	3.2	42	—
避妊薬	34	4.5	22	5.3	9	3.5	39	15.8	104	—
洗滌	0	—	3	0.7	0	—	2	0.8	5	—
梅干	1	0.1	1	0.2	0	—	0	—	2	—
手術器具	9	1.2	1	0.2	3	1.2	1	0.4	14	—
器具	2	0.3	0	—	1	0.4	0	—	3	—
膣外射精	17	2.3	4	1.0	4	1.6	0	—	25	—
体温器避妊	0	—	1	0.2	0	—	0	—	1	—
話合	0	—	1	0.2	0	—	0	—	1	—
漢法薬	1	0.1	1	0.2	0	—	0	—	2	—
医師	0	—	1	0.2	0	—	0	—	1	—
中絶法	4	0.5	1	0.2	0	—	0	—	5	—
別居	2	0.3	0	—	3	1.2	0	—	5	—
輸卵管結紮	1	0.1	0	—	0	—	0	—	1	—
帝王切開	1	0.1	0	—	0	—	0	—	1	—
レントゲン	1	0.1	0	—	1	0.4	0	—	2	—
禁欲中絶法	2	0.3	0	—	0	—	0	—	2	—
禁欲コンドーム	8	1.1	5	1.2	2	0.8	0	—	15	—
薬品コンドーム	8	1.1	4	1.0	2	0.8	0	—	14	—
薬品ベツサリー	2	0.3	3	0.7	1	0.4	0	—	6	—
薬品器具	7	0.9	3	0.7	0	—	0	—	10	—
定期禁欲器具	0	—	2	0.5	0	—	3	1.2	5	—
膣外射精コンドーム	2	0.3	0	—	0	—	0	—	2	—
定期禁欲コンドーム	4	0.5	0	—	1	0.4	0	—	5	—
薬品医師	0	—	1	0.2	0	—	0	—	1	—
コンドームベツサリー	1	0.1	2	0.5	1	0.4	0	—	4	—
定期禁欲ベツサリー	1	0.1	1	0.2	0	—	0	—	2	—
禁欲・膣外射精	1	0.1	0	—	1	0.4	0	—	2	—
定期禁欲薬品	2	0.3	0	—	0	—	0	—	2	—
三種併用	3	0.4	0	—	0	—	0	—	3	—
その他	5	0.7	1	0.2	0	—	23	9.3	29	—
不明	378	50.6	241	59.0	174	67.2	105	42.6	898	—
総計	748	100.0	412	100.0	258	100.0	247	100.0	1665	—

人々」が最も低率である。宮城県では一番高い率を示すものが勤人で工業者が之に次ぎ、農業者はやはり最低率であり、岩手県は工業者が最高で、「その他の職業に入る人々」及び商業者が略々同様な実行率で之に次いでいるが、最低は勤人で他の県と趣きを異にしている。青森県は反対に勤人が最高の率を示し「その他の職業に入る人々」が之に次いで高く、最低は工業者であつた。

以上の様に各県によつて、その実状を異にしている結果が示されたが、総計してみれば、やはり勤人が最高の割合を示し、これに次いで「その他の職業に入る人々」、工業者、商業者、労働者、農業者の順で、漁業者は二県丈の結果であるが最低率を示している。

昭和二三年の東京都を中必とする職業別の実行率と比較すると、勤人が辛うじて東京北多摩郡の商業者の最低率に匹敵している外、他の職業の人々は遙に及ばない現状である。特に農業者に到つては、東京近郊農業者の二〇％に対して、これ等純農村地域の農業者は高くても一一・四％であり、全体からみれば八・五％と一〇％に充たない半数以下の低率である。

斯ることは前節でも触れた通り、地域による文化圏距離の條件、及び斯る問題についての無関心性及び、客観的に器具薬品の手に入り難い條件や、特に具体的方法の知識が欠けていること等が、からみ合つて、東京近郊村との差をつけたものと考えられる。

八 受胎調節実行者の実行方法

本調査の結果、総数一六六五組の夫婦が受胎調節を実行しているのであるが、この中、その方法を眺めると第十表の如く、各県ともコンドーム使用者が一番多く、次が禁欲法となつてはいるが然し岡山県では避妊薬を使用するものも又多い。この禁欲とはどの位の期間禁欲するのか内容が不明であるが、荻野氏法による月経週期による

定期禁欲法ではない。

従つて斯る科学的な月経週期による方法を実行しているのは埼玉県に多く、次が岩手県で他は何れも三％位に止つてはいる。昭和二二年当時は未だ避妊薬が売り出されていなかつたので、その使用率も不明であつたが、今回の調査では、かなり使用されていることが伺える。即ち岡山県の一三・七％を最高に、宮城県五・五％、岩手県四・五％、埼玉県四・三％、青森県二・〇％となつてはいる。ベッサリーは相當にクリニック指導として宣伝されたが、普及性は、わずかに青森県の五・二％が最高で、他は何れも三％以下である。斯る点より見て、普及性は遙に劣るものがある。その他の方法を見ると、陸外射精と言うのが計一・五％の普及性を示している外、手術と言うのも全体で〇・八％に示されている。ただこの表の中で医師、話合など記入しているものがあるが、その内容は詳でない。又單一方法でなく、二種類の方法を実行している人々も合計すると四％に達している。然し方法の記入してない不明のものが五四％余り存在することは、色々の点で実行方法について、断定することが出来ない余地を残しているが、傾向としては、やはりコンドームが圧倒的に多く、次が禁欲、避妊薬、月経週期法の順序であろう。従つて考えられることは、日本の受胎調節の具体的実行方法は、男性側にあると言つて大過ない。

次に農山漁村別に第十一表を眺めるとコンドームの多いことは第十表と同様であるが、地方都市、漁村に案外避妊薬が普及していることが分る。之に比較するとベッサリーは少い。陸外射精は農村に一番多く、梅干なども農山村だけに見られる。

つまり文化中心的な都市的傾向が進むにつれて原始的な方法は使われなくなつていくことは争われないが、此処で農村と山村とは略々同様な普及実状であり、漁村は寧ろ、地方小都市的な方向を辿つてはいるようである。従つて農山村ではその実行方法が多様多様

で、不確実なものも相当実行されている反面、確実性を求めるために、二種類併用しているものもかなりの率に達している。

更に実行者が現在実行している方法をどうして使用しているかの理由を第十二表によつて見ると、コンドーム使用者の過半数は入手し易いと言う理由で、次が方法として簡便性をあげている。処がベッサリー使用者は寧ろ確実安全性を主とし、避妊薬を用いるものは方法の簡便性を先づ第一としていているものが多い。その他、禁欲を行うものは確実性を第一とし、費用の掛かる点などは考慮されないが、陰外射精者が身体に障害がないことを第一の理由としていることは興味ある対象を示している。つまり産児制限を実行する人々には先づ何よりもその方法がすぐ実行にうつせる即ち入手し易いことが一番の理由で、次が方法の簡單、便利なものが望まれている訳であり、その後始めて確実性や安全性あるものが求められていることになる。この外、人に知られたくないとか、自己の意志で解決出来る等と言うものも若干あるが、考えられていた程、実行者に障害になつていないことは今後の普及方法について一考の余地がある、従つて受胎調節の具体的方法は、何よりも先に、知識を興えることと、人に気兼ねすることなく、簡單に入手出来て、容易に操作が出来るものが、望まれていることを第十二表は物語つているのである。

九 受胎調節実行者の実行効果

受胎調節実行の効果については客観的に妊娠期間を計算して、若しその人が避妊をしなかつたなら、これ位の妊娠をしたであろうと言う効果率を示すものもあるが、此処では卒直に実行者が実行してみても、失敗して妊娠してしまつたかどうかと言う成功率の問題を述べることとする。これはパールやノートシユタインの効果率の計算ではなく、失敗、成功の結果を示すもので、ある意味ではこの方が

第 12 表 実行方法別選択理由の割合

	コンドーム	ベッサリー	避妊薬	禁欲	定期禁欲	腔外射	中絶法	洗滌	医師	梅毒	手術	漢方薬	家伝薬	二の併用	計	%
入手し易い	118	2	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	140	41.5
確実安全である	18	9	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	37	11.0
方法が簡單便利である	54	1	30	1	2	3	1	1	—	—	—	—	—	1	94	27.9
自宅で出来る	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	0.6
身体に障害がない	—	—	—	—	8	7	—	—	1	—	—	—	—	—	11	3.2
費用がかゝらぬ	—	—	1	2	1	3	1	1	—	—	—	—	—	1	10	3.0
器具薬品がない	—	—	—	2	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	3	0.9
他の方法を知らない	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	4	1.2
人に知られたくない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	0.3
医師が進めたから	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.3
自己の意志で解決出来る	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.3
道徳的である	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.3
自然な方法である	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	1	—	—	3	0.9
夫婦が協力的である	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.3
法規上当り前である	—	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	1.5
月経が一定している	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.3
母体の病弱	4	—	1	11	1	—	—	—	—	—	2	—	—	1	20	5.9
希望の子供数に達している	0	—	0	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.6
計	196	12	59	26	11	13	2	2	1	1	3	2	9	337	100.0	

第13表 避妊成功不成功の割合

		青森県		岩手県		宮城県		埼玉県		岡山県		計	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
成	功	103	29.7	175	31.3	107	30.8	229	42.3	147	42.7	561	33.7
不	成	46	13.3	94	16.8	56	16.1	4	5.8	32	9.3	232	13.9
不	明	73	21.0	134	24.0	76	21.9	111	20.3	82	23.8	379	22.8
無	記	125	36.0	155	27.9	108	31.2	222	31.6	83	24.2	493	29.6
計		347	100.0	558	100.0	347	100.0	699	100.0	344	100.0	1665	100.0

第14表 農山漁村別成功不成功の割合

		農 村		山 村		漁 村		地方小都市	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
成	功	261	34.9	133	32.3	66	25.6	101	41.9
不	成	95	12.7	79	19.2	38	14.7	20	8.1
不	明	171	22.9	91	22.1	59	22.9	58	23.5
無	記	221	29.5	109	26.4	95	36.8	68	26.5
計		748	100.0	412	100.0	258	100.0	247	100.0

第15表 避妊実行の障害の割合

		青森県		岩手県		宮城県		埼玉県		岡山県		計	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
障	害	129	37.2	193	34.6	118	34.0	320	50.8	137	39.8	612	36.8
炎	症	5	1.5	2	0.4	8	2.3	—	—	5	1.5	20	1.2
性	生	13	3.7	43	7.7	23	6.7	11	4.4	32	9.3	114	6.8
炎	症	1	0.4	1	0.2	—	—	—	—	—	—	2	0.1
そ	の	6	1.8	9	1.6	7	2.1	—	—	6	1.7	28	1.7
無	記	193	55.4	310	55.5	191	54.9	341	44.8	164	47.7	889	53.4
計		347	100.0	558	100.0	347	100.0	699	100.0	344	100.0	1665	100.0

第16表 農山漁村別避妊実行障害の割合

		農 村		山 村		漁 村		地方小都市	
		実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
障	害	294	39.3	149	26.2	78	30.2	91	37.8
炎	症	12	1.6	2	0.5	2	0.8	4	1.6
性	生	50	6.7	29	7.0	14	5.4	21	8.5
炎	症	1	0.1	—	—	1	0.4	—	—
そ	の	17	2.3	3	0.7	6	2.3	2	0.8
無	記	374	50.0	229	55.6	157	60.9	129	51.3
計		748	100.0	412	100.0	258	100.0	247	100.0

直接的であり、又現実的な問題を拾うことが出来る、出産間隔の延長と言う効果の点では前者の計算が理論的であるが、これも同一妊娠条件を背景としたもので基礎資料が信用出来ない限り同様に信頼性に乏しい、従つて此処に述べる成功不成功も事実と異なる記入があれば同様の欠点があるが、効果と言うよりも、実際に実行した人が今までに妊娠しなかつたかそれとも妊娠したかと言う面と、更に夫々の方法を實行して、その結果如何なる障害が起つたかと言う点に於ける生々しい体験を示すものとして述べることにする。

第十三表、第十四表によつて、その実状を眺めると成功していると答えているものは全体の三三・七%で、不成功だつたものは一三・九%となつてゐる。又不明と言う人は避妊を始めてから期間が短いではつきりしたことが言えない立場にある人であるが、成功か不成功、何れも記入のない人が二九・六%あつた。県別に見ると埼玉県、岡山県に成功者の割合が多く東北地方は低く特に青森県は三〇%以下である。

これと対照的に不成功者の割合は埼玉、岡山は一〇%以下で低く、東北三県は何れも一〇%以上である。此処で岩手県は東北三県の中で成功者の割合も多いが、失敗者の割合も一番多いことは、無記入者の割合が少いことより見て、斯る産兒調節に熱心な関心が払われていることを物語つてゐる。都市農山漁村別に見れば、地方都市居住者に成功者の率が高いことは予想した如くであるが、農村に案外高く示され、漁村に寧ろ低い率が示されたことは普及傾向の面から見て注意を要する。然しこの事が即ち農家の人々が産兒調節に成功していると速断する事は出来ない。何となれば前述の第九表によつても分る通り、各県に於いて実行率の高いものは農業者ではなく、やはり農村居住の勤人、商業者、工業者に実行者が多いからで、その成功率の影響を考えねばならないからである。

失敗の原因は主として器具の破損、及び月経週期の誤算に基づく

もので、注意をすれば解消出来る程度のものである。

次に斯る避妊を實行して何か障害が起きたか、どうかと言う点については、第十五、十六表に見る通り過半数のものは何等記入していないが、約三六・八%のものは先づ何等の故障をも訴えていない。然しその他の人々は何等かの問題を提起している。この中で一番多い訴えは、夫婦の性生活に不満を生じたことで岡山県の率が一番高く、岩手、宮城、埼玉、青森の順になつてゐる。産兒調節と言うことが、一般に夫婦の性生活をして禁欲的、無味乾燥的雰囲気になつて考へせしめ勝ちな方向がある事を是認せしめるような斯る率は、産兒調節普及の面より見て無視し難いものが其処にある。勿論、自然に當んでいた夫婦の性生活態度にある種の制約が加わることは否めないとしても、それだからこそ一層、夫婦関係の振舞態度の技巧性が尊重されねばならず、従つて斯る習熟性の上によつて始めて新たな愛情の展開が約束されねばならないからなのである。従つて夫婦が斯る段階にまで行けるか否かによつて、本問題の不满性は軽減されて行くものと思ふのであるが、とに角、六・八%に斯る障害性が述べられていることは、産兒調節の普及啓蒙等に更に一段の工夫がなされてしかる可きものである。又純然たる肉体的障害を示した、炎症の問題は、器具及び薬品等の品質に関して最大の注意と、粗悪品の一掃に努力を払う必要がある。

更に農山漁村別に見れば、性生活の不满は地方都市、山村に多く見られる。性交法の技術的なものと、より高い欲望に対する渴望の期待性の多少によつて相互に影響され合う一つの端的な訴えが此処にも看取されるのである。

十 結 語

今回の地方に於ける純農山漁村の実態調査を集計要約して見れ

ば、東北三県は今後も猶引き続いて啓蒙し、正しい知識の普及を計らねばならない実状であり、特に希望子供数に対する一般農村風潮は極めて水準を上廻つたものを最小限としている。つまり都会で三人と言う処が、地方では五人と言つた工合で、子供を多く持つことによつて何か、社会的の優越感を獲得するような気持が漲つてゐる。

東北の産兒調節の実行率は埼玉県や、関西の岡山県よりも低く、生活水準も低い。この反面実行してゐる人々は社会生活への自発的適応として行つてゐる感覚よりも、生活に追いつめられて止むなく実行すると言ふ感覚の方が強い。これは岩手県に青森、宮城に比して高い率が見られている原因でもある。

然し乍らやはり農民の大部分、特に主婦達は無知、無関心のものが圧倒的で、斯る問題に対しては是非を判断する素地もなければ、資格もないと言つた方が正しい位である。

普及傾向は東京都と同様に交通便利な文化圏距離に比例してゐる。従つて実行してゐるものの構成員と、実行してゐないものの構成員とは、はつきり一線がひかれる程の心理的な差があることが分るのである。

漁村に比較的都市的雰囲気傾向が見られるにも拘らず、実行率が低いのは、農村では別居等も広い意味で産兒制限と思つて実行者に入つてゐるのに、漁村では職業上、遠洋漁業等で相当期間、禁欲してゐるにも拘らず、斯る人々は実行してゐないと言ふ意識によつて不実行者に入つてゐるためもある。又この事は第十一表でも分る通り、農山村に比較して漁村は禁欲と答えた人々が遙に少いことでも肯づけよう。これを逆に言えば産兒調節と言ふことが夫婦關係を断つと言ふ面に於いて強く捕えられてゐる者が、農山地方都市生活者に予想外に多いと言ふことで、斯る点より見れば受胎調節の眞の方法論的意義が徹底してゐないと言へる。

実行者の実行理由に二つ以上を挙げているものが一〇%以上ある

に反して、不実行者が二つ以上の理由を持つものは一〇%以下であることは、その單純複雑性の問題で東京都心の人々と同様な傾向であるが、その内容は不実行者に於いて格段の差がある。即ち産兒調節と言ふことをよく分つてゐても、計画産兒と言ふ立前から現在も実行に入らないと言ふ認識ではなく、何も知らないからか、知つていても自分の生活や、特に子供と言ふものについての觀念がなお漠然としているためで、特に多産を望むという意味で実行しないと云ふことでもないのである。

問題は何よりも正確な知識を凡ての夫婦に與えることが先決であつて、これなくしては健全な産兒調節の思想は普及し難いであらう。

(一九五二、九二)